



宗谷の民有林

2020



北海道宗谷総合振興局

まえがき

宗谷管内の総面積は 4,626km² ですが、そのうちの約 7 割は森林であり、その森林は水源涵養や土砂流出の防止、二酸化炭素の吸収、木材の供給など様々な働きをしており、この地域の環境の保全や産業の振興に寄与しています。

そこでは、森林を育成・維持するための森林整備や治山事業、また、木材として利用するための伐採、これらの活動に必要な路網の開設などの事業が行われており、また、これらの事業に関連して、製材やきのこ生産などの林産業、森や木とふれあう木育活動など様々な取組が様々な人々によって展開されています。

宗谷総合振興局（林務課・森林室）では、民有林（国有林以外の全ての森林）において、これらの事業を自ら実施するとともに、森林所有者に対する林業普及指導や補助金を活用し、民間の取組を支援・促進しているほか、計画的かつ適正な森林の利用・整備を図るため、保安林の指定や許認可事務、森林計画の実行管理などを行っています。

この冊子では、管内の民有林を中心とした森林資源の現況、林業、林産業の概要のほか、宗谷総合振興局で実施している様々な取組を紹介します。

目次

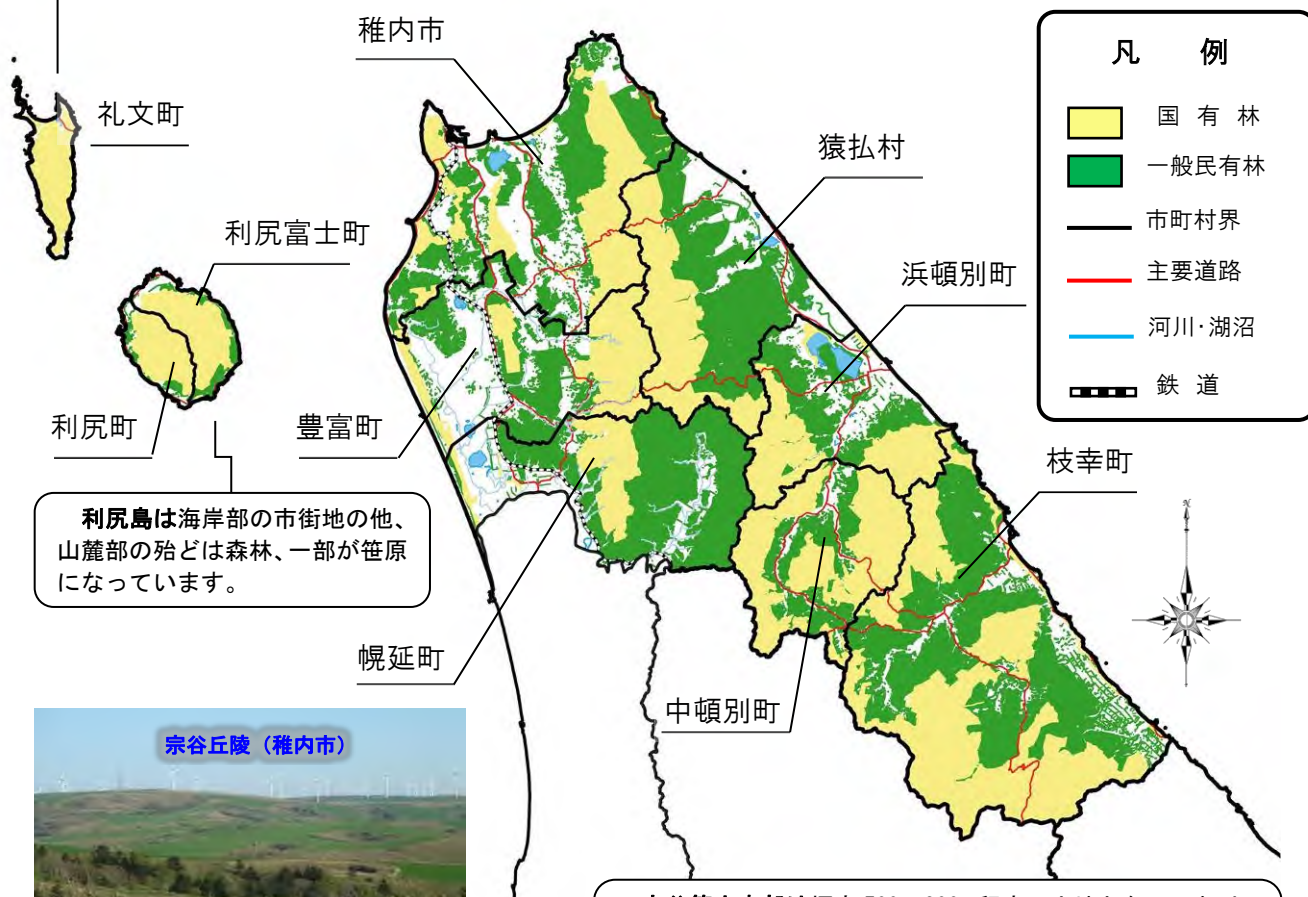
宗谷総合振興局管内森林分布図	1 P
1. 森林の現況と特徴	2 P
2. 林業の概要	7 P
3. 林産業及び木材利用	12 P
4. 林業普及指導	15 P
5. 森林計画の実行管理	16 P
6. 治山事業と保安林・林地開発	17 P
7. 木育活動等の現況	20 P
行政組織図	23 P

宗谷総合振興局管内森林分布図

礼文島は海岸部の他は、お花畑、森林、笹原となっています。

宗谷管内北部は標高 200m 前後のなだらかな宗谷丘陵と海岸沿い・河川沿いの平野となっています。

丘陵部は森林と草地、笹原、平野部は市街と草地、湿原等となっており、平野の一部には防風林等もあります。



利尻島は海岸部の市街地の他、山麓部の殆どは森林、一部が笹原となっています。



宗谷管内南部は標高 500~800m 程度の山地となっており、海岸と盆地に市街があります。

山地のほとんどは森林又は高山植生となっています。



1. 森林の現況と特徴

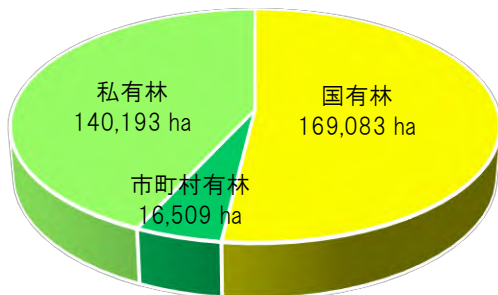
(1) 所管別の森林現況

管内の森林面積は、326 千 ha で総土地面積の 70%を占めています。所管別構成比は、国有林 169 千 ha (52%)、市町村有林 17 千 ha (5%) 私有林 140 千 ha (43%) となっており、道有林はありません。

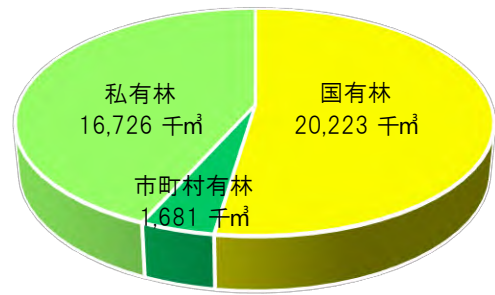
総蓄積は 38,630 千 m³ で、国有林が 20,223 千 m³ (52%)、市町村有林が 1,681 千 m³ (4%)、私有林が 16,726 千 m³ (43%) となっています。

ha 当たり蓄積は 119 m³ で全道平均の 148 m³ に比べて大きく下回っています。

所管別森林面積



所管別森林蓄積



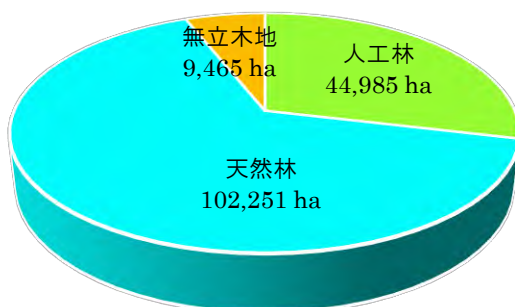
出典：北海道林業統計

(2) 民有林の現況及び特徴

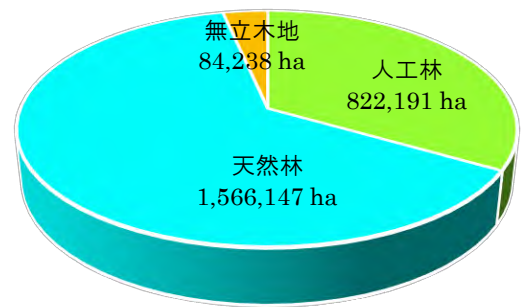
ア 林種別面積

民有林の林種別面積は人工林 44,985ha (29%)、天然林 102,251ha (65%)、無立木地 9,465ha (6%) となっており、全道に比べ人工林の比率(全道 33%)が低いこと、無立木地 (全道 3%) が高いことが特徴となっています。

一般民有林林種別面積 (宗谷管内)



一般民有林林種別面積 (全道)



出典：北海道林業統計

イ 森林の特徴

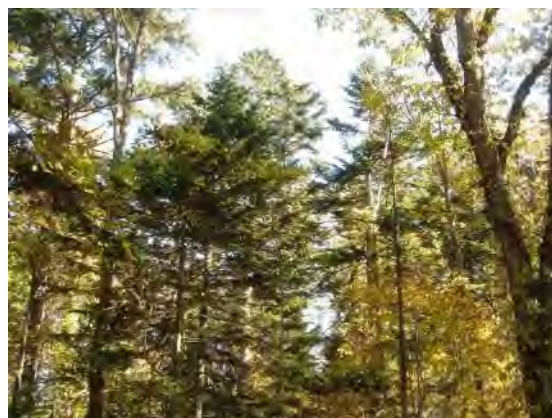
宗谷管内では、強風、多雪、低温など気象条件が厳しいことから、全般的に樹木の成長が芳しくなく（樹高が低く）、森林の蓄積も少なくなっています。

特に沿岸部や宗谷丘陵の一部では強風等のため、植栽木が育たず、無立木地となっている場所も多く見られます。

宗谷丘陵の無立木地は、かつては鬱蒼とした森林でしたが、明治44年の大火やその後も繰り返し発生した山火事、伐採、厳しい気象条件により森林が再生しなかったため、このような状況を呈するに至ったと言われています。



宗谷丘陵の無立木地



天然林（針広混交林）

林床の多くは稚幼樹の生育を阻害するササ（ネマガリダケ等）が密生しており、苗木の植栽後に下刈り（ササ等を毎年刈る作業）を長期間実施する必要があります。



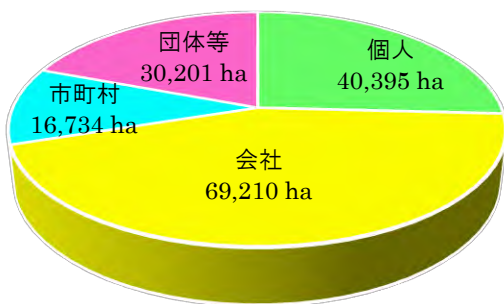
ネマガリダケと下刈り後の植栽木

ウ 所有形態別面積

一般民有林の所有形態についてみると、個人所有の面積が 40,395ha (26%)、会社等の事業体所有が 69,210ha (44%) と 事業体所有の比率が全道 (28%) に比べ高くなっています。特に職業別にみると、農家所有は 9% と全道の 15% を下回っています。

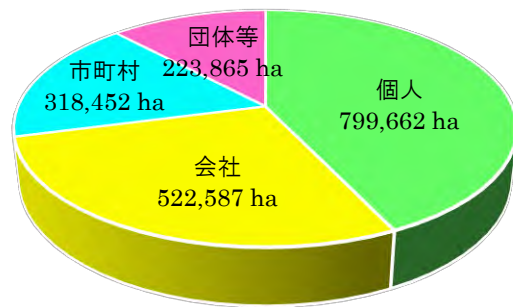
所有規模についてみると、管内における所有者 1 人当たりの平均所有面積は 40ha で、全道の 14ha に比べて高く、所有規模は大きくなっています。

所有形態別面積（宗谷管内）



出典：林務課調べ

所有形態別面積（全道）



出典：北海道林業統計



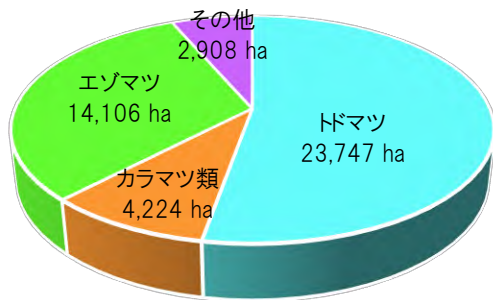
森林遠望（道道稚内猿払線沿い）

(3) 人工林資源の内容（一般民有林）

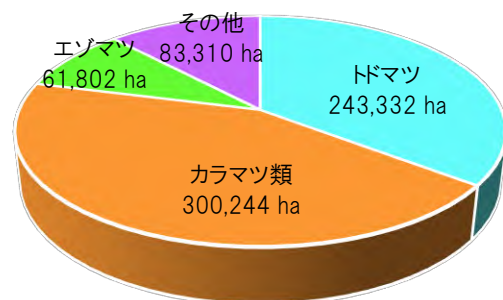
ア 樹種別面積

人工林の主要樹種は、トドマツ 53%、カラマツ類 9%、エゾマツ 31%で、全道に比べてトドマツ（全道 35%）及びエゾマツ（全道 9%）の比率が高く、カラマツ類（全道 44%）の比率は低くなっています。

人工林の樹種別面積（宗谷管内）



人工林の樹種別面積（全道）



※カラマツ類には、グイマツ、グイマツF1 及びクリーンラーチを含む
※エゾマツにはアカエゾマツを含む

出典：林務課調べ

出典：北海道林業統計



人工林（トドマツ：遠景）



人工林（トドマツ：林内）



人工林（アカエゾマツ）



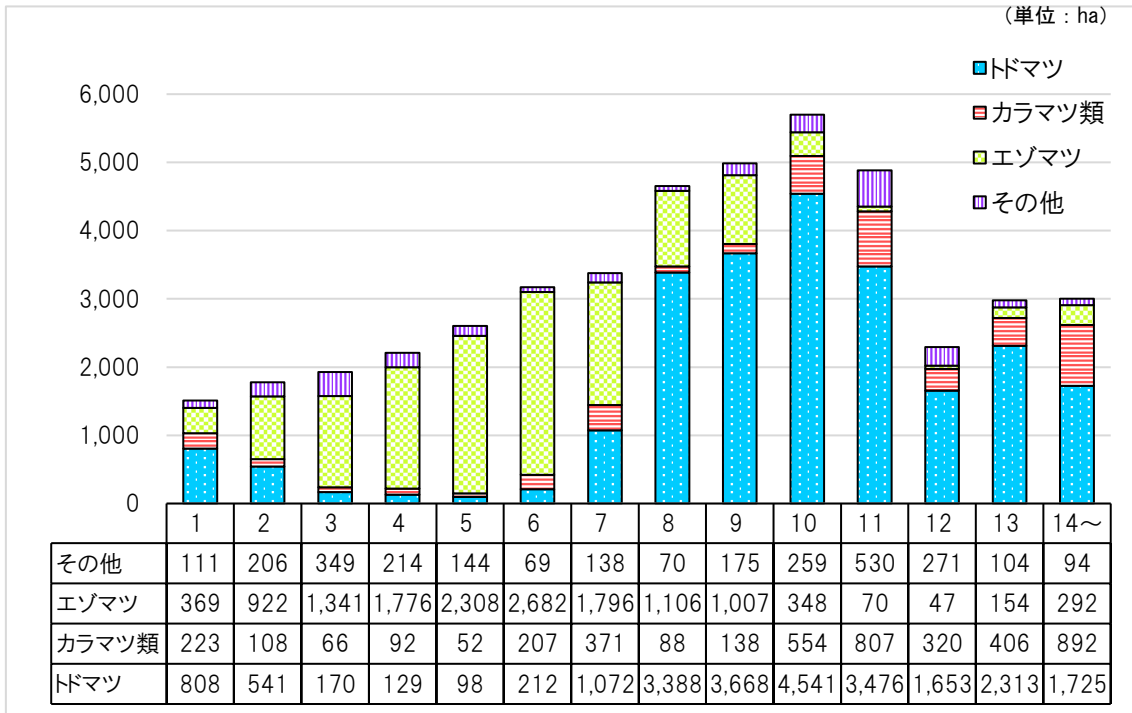
人工林（カラマツ）

イ 齢級別面積

齢級別の面積は、全体では10齢級にピークがある山型の分布となっており、7齢級以上の殆どはトドマツで、製材として利用可能な時期に達した森林が徐々に増え、高齢化して次世代更新が必要な森林も出てきています。

一方、6齢級以下の殆どはアカエゾマツで、間伐が必要な森林も増えてきており、間伐木の利用を図っていく必要があります。

人工林の齢級別面積（宗谷管内）



出典：林務課資料



地拵終了箇所遠景（浜頓別町）



アカエゾマツ2段林（稚内市）

2. 林業の概要

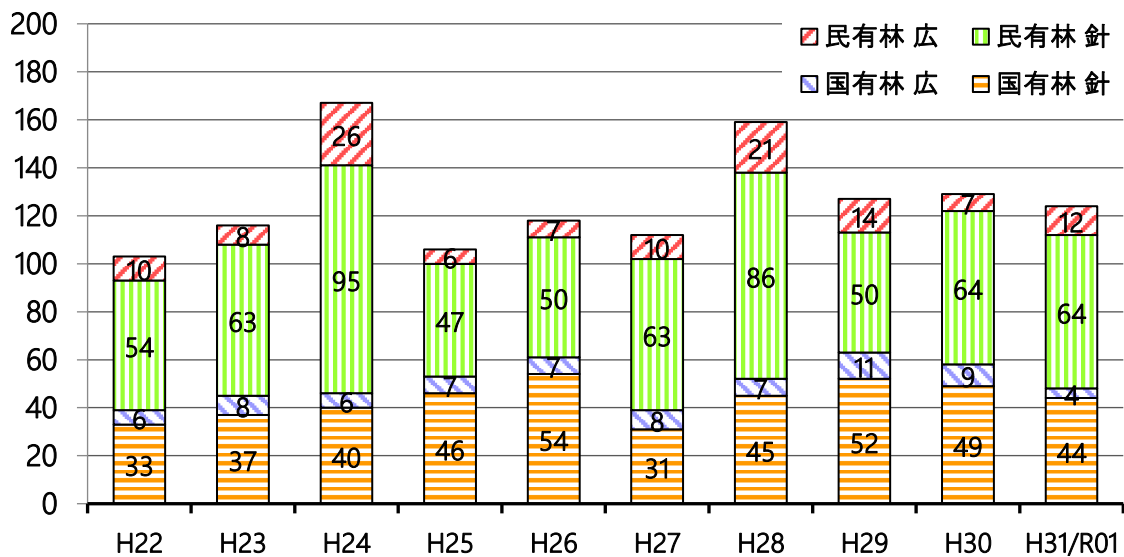
(1) 伐採量及び造林量

ア 伐採材積の推移

管内の伐採材積は、令和元年度で124千m³であり、全道の伐採量(5,177千m³)に占める割合は2.4%と低い状況です。

宗谷管内所管別・針広別伐採材積

単位：千m³



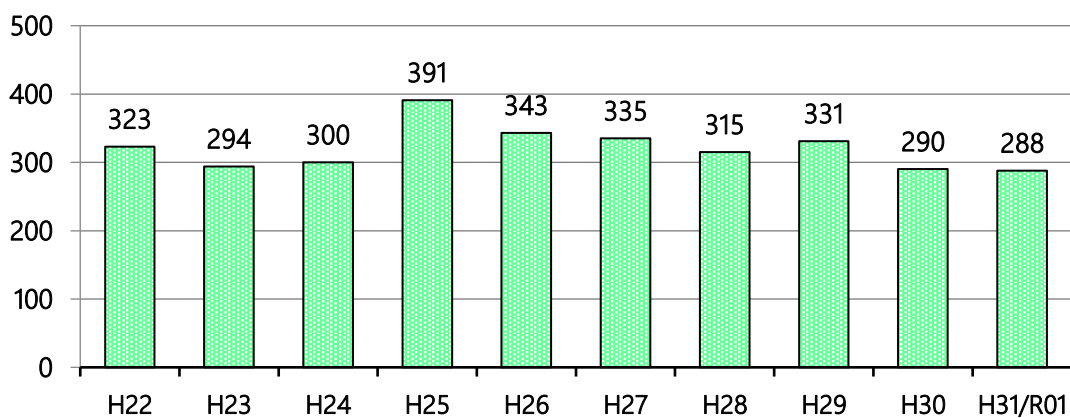
出典：北海道林業統計

イ 人工造林面積の推移

管内民有林の人工造林は、昭和30年代には盛んに行われていましたが、近年は300ha程度で推移しています。

宗谷管内民有林人工造林面積

単位：ha



出典：北海道林業統計

(2) 森林整備事業

森林整備事業では、森林施業の集約化や森林の有する公益的機能の維持・増進を図るため、森林所有者や森林組合などが計画的に行う人工造林や間伐等に対して補助しています。

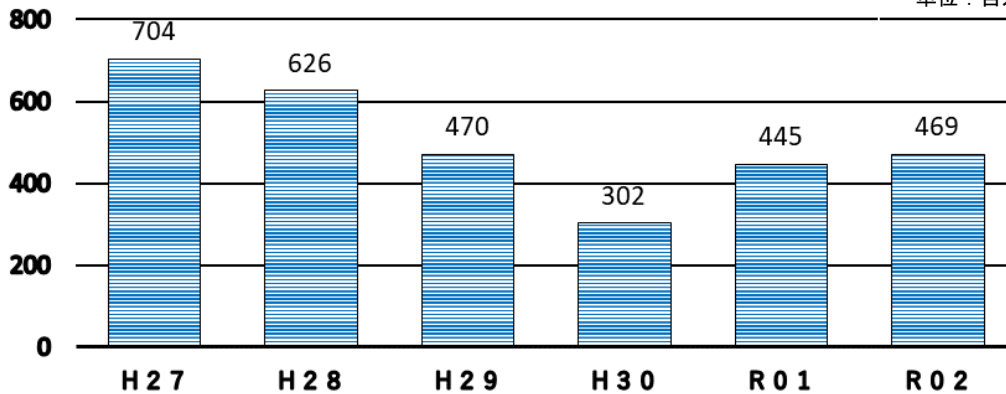
令和2年(2020年)度森林整備事業実績及び令和3年(2021年)度計画

区 分	令和2年 (2020年)度実績	令和3年 (2021年)度計画
予算額(補助金額)	550,827千円	643,786千円
人工造林・樹下植栽等	368ha	391ha
下刈り	2,018ha	2,156a
枝打ち	29ha	3ha
除伐等・間伐・更新伐	1,173ha	1,224a
殺鼠剤散布	434ha	403ha
シカ侵入防止柵	—m	—m
森林作業道	830m	1,000m

出典：林務課資料

森林整備事業予算推移(当初予算)

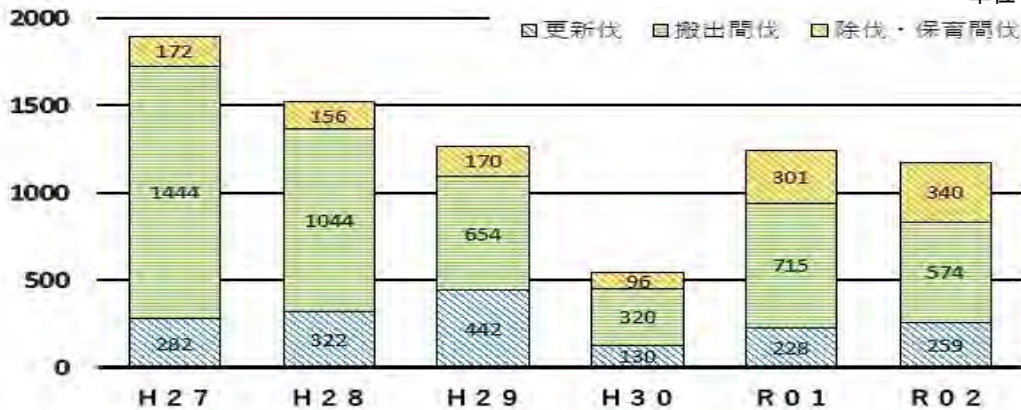
単位：百万円



出典：林務課資料

更新伐・搬出間伐、除伐・保育間伐実施面積推移

単位：ha



出典：林務課資料

(3) 路網整備事業

林内路網は、森林の適正な管理や効率的な林業経営に欠かすことのできない施設であるとともに、農山村地域で暮らす人々の生活道としても重要な役割を果たしています。

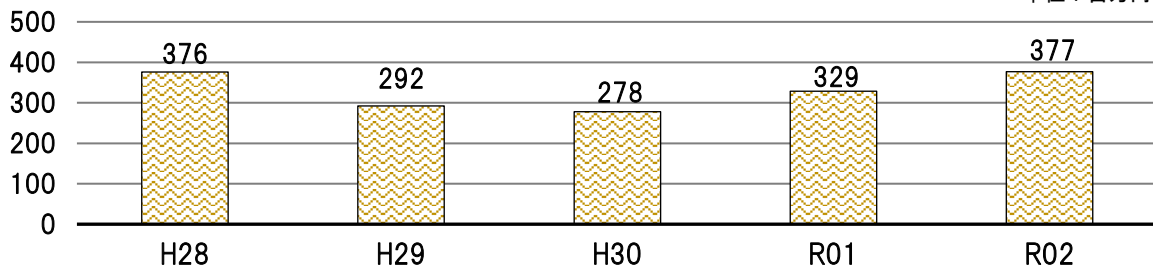
路網整備事業では、一般車両の走行も想定した、森林基幹道・森林管理道・林業生産基盤整備道と、林内作業用車両の走行を想定した林業専用道の開設を行っており、事業の実施にあたっては、工事開始前に自然環境や路線計画についての全体計画調査、事業着手時及び実施途中における事業評価を行うとともに、低コスト工法や環境にやさしい間伐材を利用した工法などを採用し、自然環境の保全や事業費の縮減にも努めています。

令和2年（2020年）度路網整備事業実績及び令和3年（2021年）度計画

区 分		令和2年 (2020年)度実績	令和3年 (2021年)度計画
事業費 (非公共事業除く)		385,142千円	303,000千円
公共事業	道発注事業	林業生産基盤整備道 (中頓別町) 松麿線 540m 65,349千円	500m 60,000千円
		林業生産基盤整備道 (枝幸町) 三笠山ウエンナイ線 1,460(40)m 120,358千円	1,000m 100,000千円
	市町村等 発注事業	林業生産基盤整備道 (豊富町) 960m 64,329千円	510m 15,000千円
		林業専用道 (浜頓別町・中頓別町・枝幸町・豊富町) 3,039m 135,105千円	2,400m 128,000千円
非公共事業	林業専用道(規格相当) (中頓別町・枝幸町・豊富町・稚内市) 2,880m 84,354千円	2,650m 65,660千円	

路網整備事業予算推移

単位：百万円



林業専用道(規格相当) 峰岡2号線(稚内市)



林業生産基盤整備道松麿線(中頓別町)

(4) 林業事業体

ア 森林組合

森林組合は、地域の森林所有者が組合員となって、林業経営を効率よく進めるために組織した協同組合で、組合員のために植林や下刈・除間伐などの森林づくりから素材の生産・販売などを行っています。

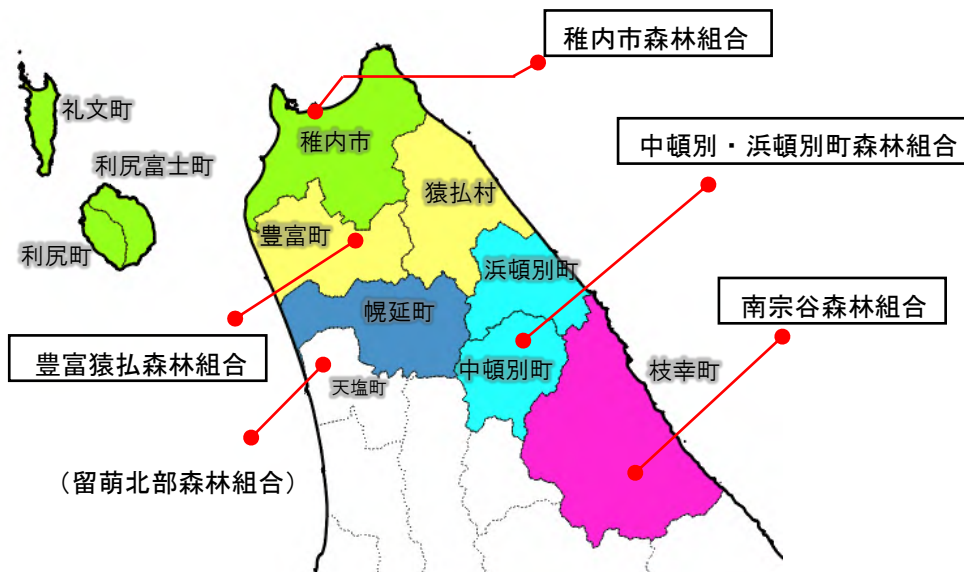
平成30年度末の1組合当たり平均（4森林組合の平均）の加入森林面積は15,175ha、払込済出資金は47,886千円、事業総収益は139,988千円となっております。

管内森林組合経営基盤・主要事業量

区分	経営基盤			主要事業量			
	森林面積 (ha)			販売 (m3)		森林整備 (ha)	
	地区内 民有林	組合加入	加入率 (%)	販売	林産	新植	保育
管内	126,221	60,703	48.1	18,049	4,416	250	2,056
全道	1,864,147	1,004,166	53.9	660,583	755,551	6,964	38,441

* 管内は宗谷管内に本所所在の4森林組合（稚内市、豊富猿払、中頓別・浜頓別町、南宗谷森林組合）の計
* 平成30年度森林組合一斉調査による

管内森林組合所在地



イ 登録林業事業体

道では、森林所有者等が森林整備を実施する際、明確な情報に基づいて林業事業体を選択できるようにするとともに、適切な森林施業を行い、労働安全衛生管理に努める健全な林業事業体の育成を図り、もって北海道の森林の整備に資することを目的とした「北海道林業事業体登録制度」を創設しました。

現在管内では31の林業事業体が登録され、森林整備に取り組んでいます。

(5) 林業新規就業対策

道内では、人工林資源が利用期を迎え、今後、伐採や植林などの事業量の増加が見込まれる中、林業労働者の高齢者の割合は高くなっています。

そこで、道では、平成28年度より順次、各地で地域ネットワークによる新規就業者の確保に向けた取組を実施しており、宗谷においても平成29年4月に行政機関や林業事業体など30団体で構成する宗谷地域林業担い手確保推進協議会を設立し、各種の取組を行っています。

令和2年度は、林業・木材産業の仕事について知ってもらうため、室内講義である「学校訪問」や現地見学である「林業体験」、高校の進路ガイダンスへのブース出展、企業勉強会への参画など、学校のニーズに合わせて取り組みました。

今後も、林業担い手の育成・確保のため、関係機関と連携し、継続した取組を進めて行く予定です。

「学校訪問」「林業体験」等の実施（令和2年度）

学校名	形態	開催日時	参加者
稚内北星学園大学	学校訪問	R2. 7. 28(火)	45名
	林業体験	R2. 8. 1(土)	12名
稚内高校	新型コロナウイルス感染症対策のため中止		
稚内大谷高校	新型コロナウイルス感染症対策のため中止		
枝幸高校	新型コロナウイルス感染症対策のため中止		
浜頓別高校	学校訪問	R2. 7. 21(月)	7名
豊富高校	WEB開催	R2. 10. 6(火)	21名
礼文高校	新型コロナウイルス感染症対策のため中止		
利尻高校	新型コロナウイルス感染症対策のため参加不可		



学校訪問（稚内北星学園大学）



林業体験による現場見学

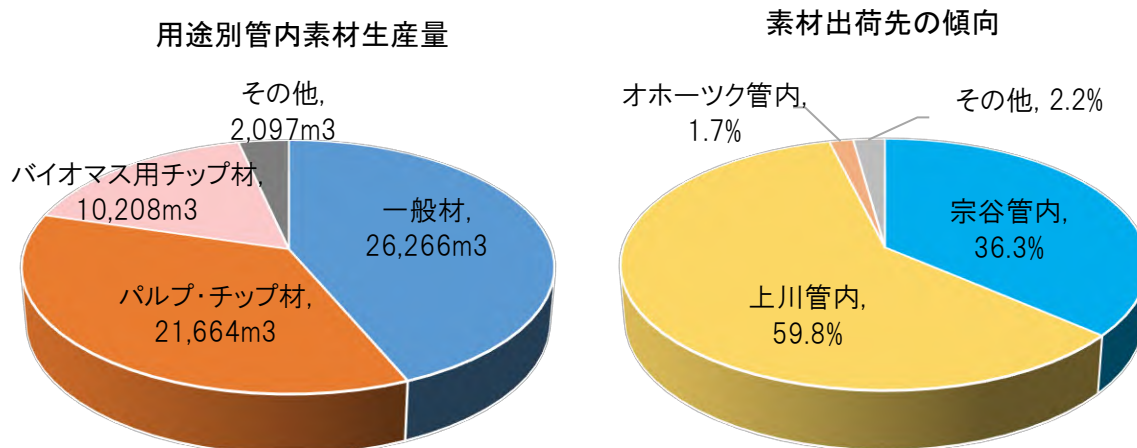
3. 林産業及び木材利用

近年の林産業界を取り巻く環境は、道内における木質バイオマス大規模発電施設に伴う原木集荷が始まり、ここ数年でチップ材の素材生産量が大きく増加しています。その一方で、小径木を主に扱う工場では原木価格の上昇や、適木不足などの課題が生じています。加えて、宗谷管内は管外への出荷に係る搬送距離による輸送コストの増加などにより依然として厳しい状況が続いています。

(1) 素材生産

令和元年度の民有林の素材生産量は 60 千 m^3 であり、うち一般材が 26 千 m^3 (44%)、パルプ・チップ材が 21 千 m^3 (36%)、バイオマス用チップ材が 10 千 m^3 (17%)、その他が 2 千 m^3 (3%) です。生産された素材のうち、管内で消費されているのは約 36.3%で、59.8%が上川管内に出荷されています。

管内の素材生産は、管内に所在する生産業者 14 社 (4つの森林組合を含む) のほか、隣接地域の生産業者により行われています。



出典：林務課資料



〔高性能林業機械（ハーベスタ）による採材作業〕

ハーベスタは1台で立木をつかんで伐倒し、枝を払い、一定の長さの丸太に切りそろえることができる高性能林業機械です。

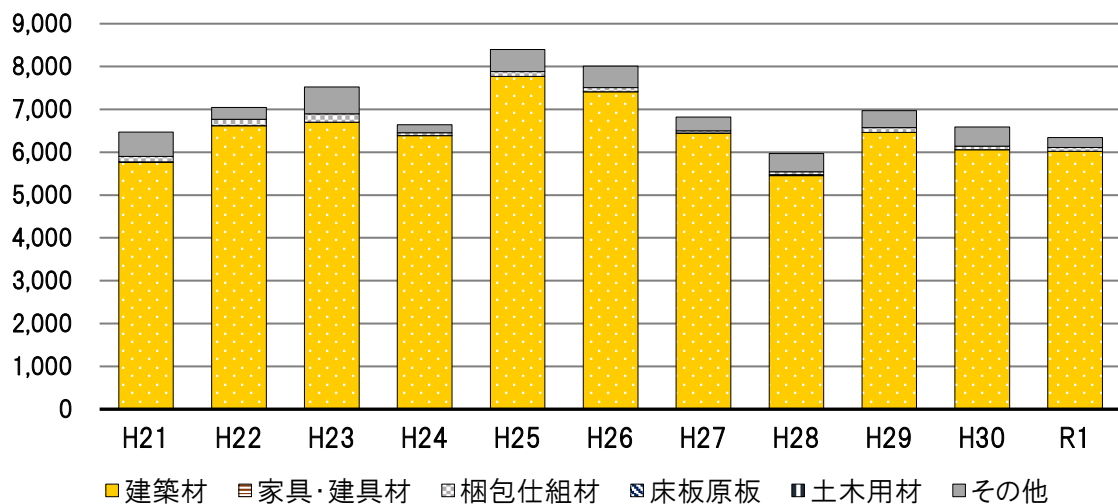
(2) 木材加工

管内の工場は5工場あり、工場分類としては製材、プレカット、割箸、チップ工場の全4種で、1工場で複数の製造を行っている工場もあります。

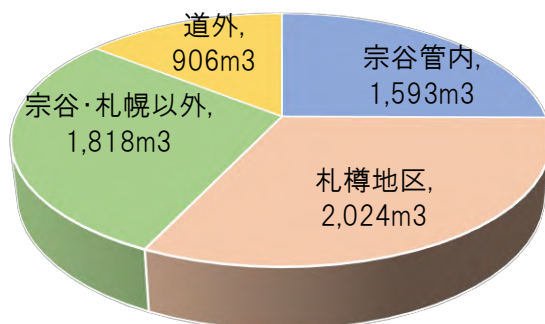
製材工場では針葉樹を用いた建築材、プレカット工場ではプレカット材や杭、割箸工場では製材端材を用いた割箸、チップ工場では主に木質バイオマス発電用となるチップを製造しています。これらの工場では製造過程でおが粉が生産され、畜産用敷料やきのこと菌床などとして利用されている他、加工されてブリケットなどの燃料になりボイラーやストーブの燃料として利用されています。

なお、令和元年度の生産量は製材生産量が約 6.6 千 m^3 、出荷量が約 6.3 千 m^3 、チップ生産量が約 25.3 千 m^3 でした。

用途別製材出荷量の推移



製材出荷先の傾向



出典：林務課資料



製材工場(稚内市)



プレカスト工場（稚内市）



割箸工場（中頓別町）

（3）特用林産物

宗谷管内の特用林産物生産施設は3施設あり、うち山菜工場が1工場、きのこ類生産施設が2施設となっています。

きのこ類については、授産施設での生産となっており、きのこ類・山菜ともに市場へ出荷されています。

（4）木材利用の事例

林業及び木材産業等の振興のため、木質バイオマス製造・利用施設の整備、市町村等における木造公共施設の整備など様々な取り組みを行っています。

木造公共施設の整備事例



多目的交流施設（豊富町）



コミュニティセンター（礼文町）

木質バイオマス製造・利用施設の事例



木質バイオマスチップ（枝幸町）



バイオベッド（猿払村）

4. 林業普及指導

森林所有者や市町村、森林組合等に対して、森林・林業に関する技術、知識の普及指導、支援を行っています。

この取組により、林業技術の改善、林業経営の合理化や森林整備を促進し、森林が持つ多面的機能の発揮と地域林業の発展につながる事を目的としています。

また、模範的な山づくりの取組などを行っている森林所有者を「指導林家」、次世代の後継者で地域のリーダー的な活動を行っている若手を「青年林業士」として認定し、地域林業の活性化に向けた取組を行っています。



森林組合への技術指導（枝幸町）



指導林家・青年林業士研修（中頓別町）

<指導林家認定状況>

市町村	認定者数
猿払村	1名
浜頓別町	1名
中頓別町	5名
枝幸町	5名
豊富町	3名
稚内市	1名
幌延町	1名
計	17名

<青年林業士認定状況>

市町村	認定者数
中頓別町	1名
浜頓別町	1名
枝幸町	3名
豊富町	3名
利尻富士町	1名
稚内市	2名
計	11名

5. 森林計画の実行管理

平成 23 年の森林法改正で森林計画制度の大幅な見直しが行われ、森林計画の作成や実行を担う市町村や森林組合の役割が大きくなっています。

また、森林・林業の再生に向けては、地域の森林・林業のマスタープランとされる市町村森林整備計画の着実な実行が欠かせません。

森林室及び林務課では、市町村や森林組合が行う次の取組に対して支援を行い、森林・林業の再生に向けた取組を行っています。

【市町村森林整備計画実行管理推進チーム・森林経営計画作成推進班の活動】

宗谷総合振興局管内では、地域別に 5 つの市町村森林整備計画実行管理推進チームと森林経営計画作成推進班が組織され、森林整備や木材利用の推進、森林経営計画の実行確保に向けた取組を行っています。



実行管理推進チーム会議（豊富町）



宗谷地区森づくり技術研修会
（浜頓別町）

6. 治山事業と保安林・林地開発

(1) 治山事業

治山事業では土石流等によって荒廃した溪流の保全、急傾斜地の崩壊防止、防風林等の造成を行っており、一部の小規模工事を除き、北海道が事業を実施しています。

近年多発する集中豪雨による崖崩れ等の被害が発生しており、その復旧に力をいれています。

令和2年（2020年）度治山事業実績及び令和3年（2021年）度計画

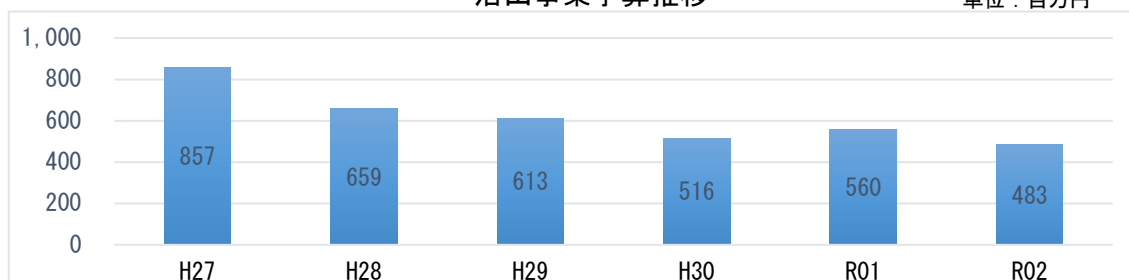
区 分	令和2年 (2020年) 度実績	令和3年 (2021年) 度計画
事 業 費	482,509 千円 (29 箇所)	557,473 千円 (22 箇所)
復 旧 治 山	83,703 千円 (3 箇所)	266,000 千円 (4 箇所)
緊 急 総 合 治 山	—	27,273 千円 (1 箇所)
予 防 治 山	50,944 千円 (1 箇所)	40,000 千円 (1 箇所)
機 能 強 化 ・ 老 朽 化 対 策	77,222 千円 (1 箇所)	23,000 千円 (1 箇所)
防 災 林 造 成	79,160 千円 (2 箇所)	67,000 千円 (2 箇所)
保 育	32,677 千円 (7 箇所)	24,200 千円 (5 箇所)
小 規 模 治 山	154,405 千円 (14 箇所)	110,000 千円 (8 箇所)
災 害 関 連 緊 急 治 山	4,398 千円 (1 箇所)	—

※繰越工事 (R2 通常 (復旧) 及び R2.8 災害等 (施設災・災害関連)) については、R3 実績に掲載予定。

出典：林務課資料

治山事業予算推移

単位：百万円



R2 災害 ヤムナイ沢 (利尻富士町)



礼文地区 機能強化・老朽化対策事業 (礼文町)

(2) 保安林

管内では、日本ではじめて指定された防雪保安林をはじめ、水源のかん養、国土の保全、生活環境の保全形成、保健休養の場の提供などを目的とした各種保安林を計画的に配備し、令和3年3月31日現在の保安林面積は14,721ha（うち兼種面積1,622ha）となっています。

保安林種別の面積は、水源かん養保安林が約8,837ha（60%）と最も多く、次いで土砂流出防備保安林の約2,837ha（19%）、防風保安林が約1,564ha（11%）となっています。（以下は下表のとおり）



強風から放牧地を守る防風保安林（枝幸町）

○市町村別保安林面積

令和3年3月31日現在（単位：ha）

	水 源 かん養 保安林	土砂流 出防備 保安林	土砂崩 壊防備 保安林	防 風 保安林	干 害 防 備 保安林	防 雪 保安林	なだれ 防 止 保安林	魚つき 保安林	保 健 保安林	風 致 保安林	計
猿 払 村	353		3	198	501				(13)		(13) 1,055
浜 頓 別 町	278	14		114						37	443
中 頓 別 町		575	6						(39)		(39) 581
枝 幸 町	4,215	736	48	294	(97)				(785)		(882) 5,293
豊 富 町		109	1	427					(16)		(16) 537
礼 文 町		10	77				33				120
利 尻 町		209	2	209			26		(102)		(102) 446
利尻富士町	1	147	2	50	93						293
稚 内 市	3,654	3	15	26	33	22	22	(127)	(483)		(610) 3,775
幌 延 町	336	1,034	6	246	521	9	1		25		2,178
計	8,837	2,837	160	1,564	(97) 1,148	31	82	(127) 0	(1,438) 25	37	(1,662) 14,721

※面積は各項目で小数点以下を四捨五入。（ ）書きは兼種保安林（2以上の目的が重複）で内数。

(3) 林地開発

林地開発許可制度は、森林の乱開発を防止し、森林の土地の利用を適正に行うため昭和 49 年に制度化され、1 ha を超える森林（地域森林計画対象民有林）を開発する場合に許可が必要となります。

近年、風力発電施設の設置に係る開発行為の相談が増加していることから、今後、当行為に係る許可申請案件が増えると推測されます。



風力発電施設の設置（稚内市）



土砂等の採掘現場（浜頓別町）

○市町村別林地開発許可件数及び面積

令和 3 年 3 月 31 日現在

	開発行為の目的	件数	面積 (ha)	備考
浜頓別町	土石等の採掘	2	61	本庁許可分含む
枝幸町	土石等の採掘	1	2	
豊富町	土石等の採掘	1	3	
	事業場の設置	1	31	本庁許可分含む
幌延町	土石等の採掘	4	11	
	事業場の設置	1	5	
計		10	113	

※林地開発行為許可は、宗谷管内では平成 19 年度に稚内市に、平成 26 年度に中頓別町に、その権限が移譲されています。

○年度別林地開発許可件数及び面積の推移

令和 3 年 3 月 31 日（単位：ha）

区 分	H 2 7		H 2 8		H 2 9		H 3 0		R 0 1		R 0 2	
	件数	面積	件数	面積	件数	面積	件数	面積	件数	面積	件数	面積
事業場の設置									1	13	3	23
土石等の採掘	1	1	2	4	1	4	1	2	2	9	1	2
そ の 他												
計	1	1	2	4	1	4	1	2	3	22	4	25

※権限移譲分は除く

7. 木育活動等の現況

北海道では、子供をはじめとするすべての人が、木とふれあい、木に学び、木と生きるという『木育』の理念のもと、様々な活動を行っています。

(1) 道民との協働の森づくりの推進

道民が森林に親しみながら、森づくりに自発的に取り組む活動の輪を広げ、森林の整備、保全を社会全体で支えるという意識を醸成することを通じ、道民との協働による森づくりを推進します。

・植樹事業等（地球温暖化防止・北のてっぺん緑化プロジェクト）

地球温暖化の原因の1つとされるCO₂、その吸収源である森林づくりを稚内市の無立木地において実施しています。

国や関係団体を始めとする、地域住民によるボランティア活動で植樹、保育管理等、健全な森林づくりを行うことによって、地球温暖化防止に貢献しています。

地球温暖化防止・北のてっぺん緑化プロジェクト植樹箇所位置図（稚内市）



植樹活動（稚内公園）



下刈活動（稚内公園）

(2) 教育機関等と連携した木育の推進

小中学生等が森や木とふれあうことを通じて交流や連携を深め、森を大切に思う心を培うとともに木の良さを感じてもらい「人と、木や森とのかかわりを主体的（自分自身の意思・判断で）に考えられる豊かな心」を育てるため、教育機関をはじめ、国や関係団体との連携のもと、木育の推進を図っています。



林業体験「除伐」(利尻富士町)



森林学習「苗木を育てる」(枝幸町)



森林学習「樹木の観察」(幌延町)



森林学習「植樹体験」(中頓別町)

(3) 木育教室の開催

地元市町村や林業関係機関、教育関係機関等と連携し木工体験の学習支援やイベント等に合わせて木育教室を開設し、木に親しむ機会を提供しています。



木工作体験 (浜頓別町)



木育教室 (利尻町)

(4) 森林・山村多面的機能発揮対策事業

地域住民や森林所有者、林業等の技術を持っている人達が協力し、里山林の保安全管理や資源の有効利用を図るための活動を支援しています。

市町村名	対象団体	事業タイプ	取組内容	取組年度	対象森林面積
利尻町	杓形森林愛護組合 連合会	地域環境保全 (里山林保全)	倒木処理、集積処理	H29～R2	8.00ha
利尻町	利尻木育会	地域環境保全 (里山林保全)	植樹、下刈、集積処理	H29～R2	7.50ha

(5) 各種表彰

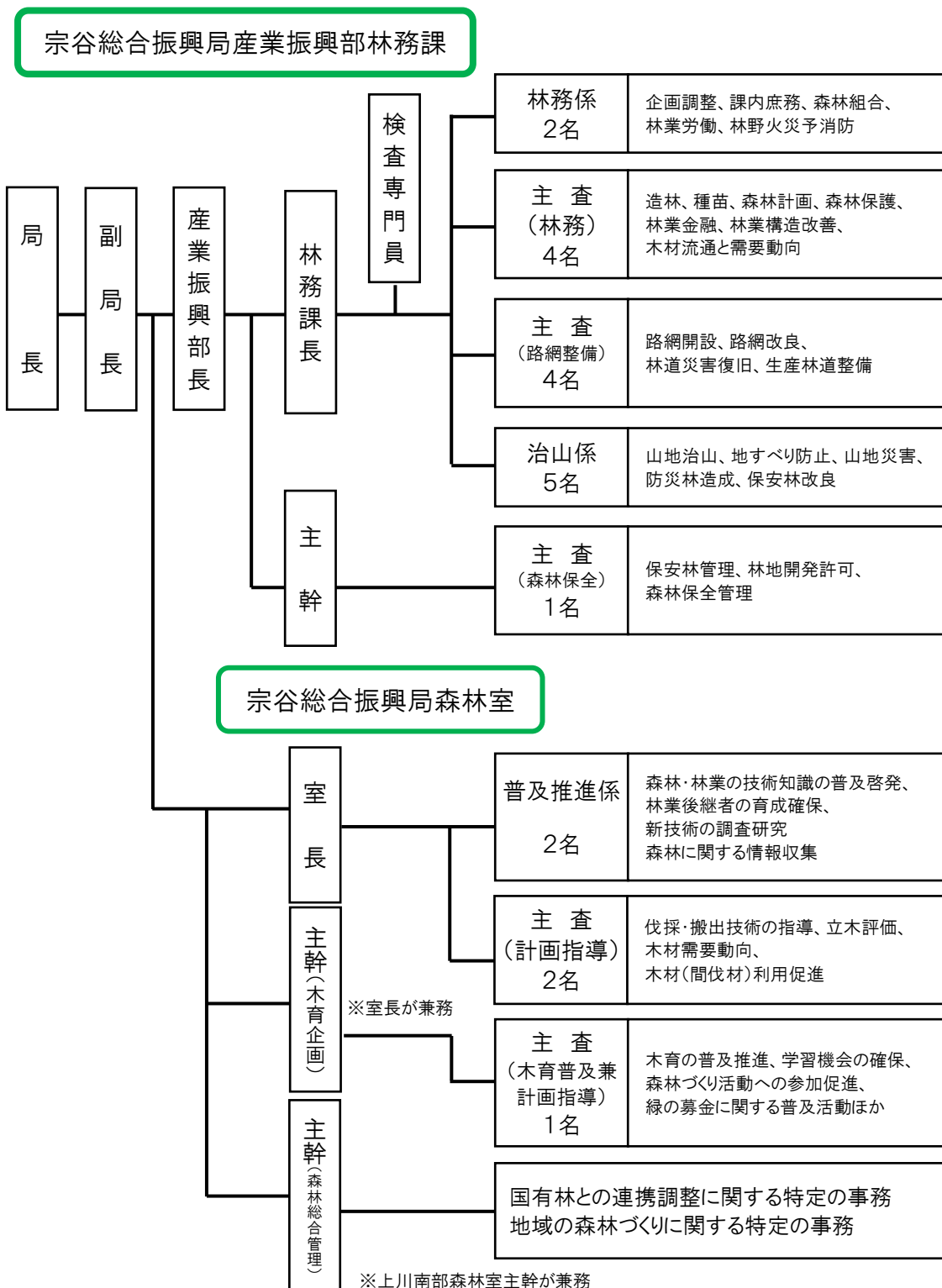
永年にわたり緑化事業・産業の振興に尽力し、若しくは貢献し、その功績が極めて顕著であり、他の模範になられた方々を表彰しています。

また、緑化思想の普及啓発を図るため、ポスター・標語を児童、生徒から募集し、優秀作品応募者を表彰しています。

【宗谷管内の主な受賞者（平成20年以降）】

表彰区分	表彰年	受賞者
北海道 社会貢献賞表彰 (森を守り緑と 親しむ功労者)	平成20年	浜頓別ジュニア・アドベンチャークラブ(浜頓別町)
	平成22年	宗谷漁業協同組合(稚内市)
	平成24年	頓別漁業協同組合女性部(浜頓別町)
	平成26年	利尻漁業協同組合鬼脇支所女性部(利尻富士町)
	平成29年	歌登青年の山グループ(枝幸町)
	平成30年	うたのぼり・癒しの森「音夢路」利用促進研究会(枝幸町)
	令和元年	猿払村漁業協同組合女性部(猿払村)
北海道 産業貢献賞表彰 (森林づくり功労者)	平成22年	村山 裕 氏 (枝幸町)
	平成23年	美田和三郎 氏 (稚内市)
	平成24年	無量谷 隆 氏 (幌延町)
	平成26年	山元 正雄 氏 (稚内市)
	平成28年	峰友 武 氏 (中頓別町)
	平成29年	中嶋 陽三 氏 (浜頓別町)
	令和 2年	森谷 浩久 氏 (稚内市)
緑化活動啓発作品 コンクール(標語の部)	平成20年	稚内市立下勇知小中学校(優秀賞1、佳作1)
	平成21年	稚内市立上勇知小中学校(佳作1)、稚内市立下勇知小中学校(優秀賞1、佳作2)
	平成22年	稚内市立下勇知小中学校(優秀賞1)
	平成23年	稚内市立下勇知小中学校(奨励賞1)
	平成24年	稚内市立下勇知小中学校(奨励賞1)
	平成28年	稚内市立宗谷小学校(奨励賞1)、稚内市立稚内南小学校(奨励賞1)
	平成29年	稚内市立宗谷小学校(奨励賞1)
林野火災予消防作品 コンクール(標語の部)	平成20年	稚内市立勇知小学校(最優秀賞1)
	平成27年	稚内市立宗谷小学校(優秀賞1)
	令和 2年	稚内市立稚内南小学校(最優秀賞1、優秀賞1)

行政組織図



宗谷の民有林 2020

宗谷の民有林 2020年版

発行 北海道宗谷総合振興局
編集 宗谷総合振興局産業振興部林務課
稚内市末広4丁目2番27号